

# 地球環境と世界市民

EARTH ENVIRONMENT AND GLOBAL CITIZEN

## 「地球環境と世界市民」国際協会第7回大会

### 「日本・タイ国際会議：環境教育を通じた日本・タイの大学連携 カリキュラム、フィールドワーク、人材交流等をめぐって」のご案内

来たる2004年5月19日(水)に標記国際会議を開催致します。本会議では、タイのプラナコーン=ラジャバト王立大学より5名の先生と1名の大学院生をお招きし、環境教育活動におけるカリキュラム、フィールドワーク、人材交流等の視点からアプローチした大学連携をはかることを目的とします。

ラジャバト王立大学はタイでも有数の教員養成系大学として知られ、最も伝統のあるプラナコーン=ラジャバト王立大学においては、「環境教育センター」を中心に環境教育の人材育成も積極的に行なわれています。また、2004年度より「甲南大学環境総合研究所」の設置にあたり、環境教育研究機関・諸大学と連携して、環境教育学へのグローバル・スタンダード化の推進を行なうものとたく考えております。

招待講演においては、Siriwat Soondarotok氏(プラナコーン大学環境教育センター長/国際協会・理事)よりプラナコーン大学の環境教育センターで実際に行なわれている環境教育のカリキュラム、フィールドワークを紹介いただくとともに、環境教育センターを中心として行なわれているオーストラリアとの人材交流と人材育成の事例について講演していただきます。基調講演において、谷口 文章 氏(甲南大学環境総合研究所・所長/国際協会・会長)より「環境教育の国際的な大学連携の試み カナダ・ヴィクトリア大学環境学部フィールド・コースの事例より」について講演していただきます。またパネル・ディスカッションでは、「環境教育を通じた日本・タイの大学連携 カリキュラム、フィールドワーク、人材交流等をめぐって」のテーマのもと、日本とタイにおける大学の環境教育カリキュラム、フィールドワークの事例を共有化し、人材交流等についてディスカッションする予定です。

さらに、サテライト・シンポジウムでは日本・タイ学生フォーラムを企画しております。「大学生による環境教育活動とその展開 循環型コミュニティの創造とパートナーシップの構築をめざして」のテーマのもと、プラナコーン大学と甲南大学で行なわれている環境教育の取組について報告し、今後目指される大学での環境教育について学生達の視点から情報交流を行ないます。

本大会開催に至るまでの経緯として、1996年に開催されました国際シンポジウム「環境倫理と環境教育 - 人と自然の共生をめざして -」(於：甲南大学)では、Laddawan Kanhasuwan氏(プラナコーン大学環境教育センター・元センター長)をお招きしました。1998年に国際シンポジウム「環境倫理と環境教育 - 科学技術と人間性をめぐって -」(於：甲南大学)が開催され、Siriwat Soondarotok氏をお招きしました。さらに2000年には、日本・タイ国際会議「環境倫理と環境教育」をプラナコーン大学で開催し、会議終了後、エコ・ツアーを行ないました。カオヤイ国立自然公園に訪れ、自然体験プログラムを経験し、またUNESCO/PROAP(アジア・太平洋地域教育事務所)等を訪問しました。また全ツアーを通して、タイの歴史や伝統に触れ、文化交流を行ないました。

本大会を通じて、さらなる両国のパートナーシップの構築とともに、カリキュラム研究、フィールドワークにおけるモデル事例の共有化、さらに今日重要とされているソフト面の人材交流においても、示唆の多いディスカッションが展開されることを予定しております。

皆様の多くの御参加をお待ちしております。

会 期：2004年5月19日(水) 12:50～17:50 懇親会 18:30～20:30  
会 場：甲南大学(10号館10-21教室)  
主 催：「地球環境と世界市民」国際協会・甲南大学環境総合研究所・甲南学園  
平生太郎科学研究「環境学の統合化の研究 学部横断カリキュラムの体系化  
と環境教育の国際的カリキュラム構築の試み」  
共 催：プラナコーン=ラジャバト王立大学環境教育センター・日本環境教育学  
会関西支部  
後 援：日本環境教育学会  
参 加 費：500円[資料代]  
懇親会費：一般：3,000円 学生：2,000円

## プ ロ グ ラ ム

- 12:20 受 付(10号館2階)  
12:50 開 演  
12:55～13:00 開会挨拶 谷口 文章 氏(「地球環境と世界市民」国際協会・会長)  
13:00～13:40 招待講演「プラナコーン=ラジャバト王立大学・環境教育センターにおける取組  
オーストラリアとのパートナーシップの事例より」【通訳あり】  
Siriwat Soondarotok氏(プラナコーン=ラジャバト王立大学環境教育センター長/国際協会・理事)  
13:40～14:35 サテライト・シンポジウム：日本・タイ学生フォーラム【英語のみ】  
「大学生による環境教育活動とその展開 循環型コミュニティの創造とパートナーシップの構築を  
めざして」  
コーディネーター：谷口 文章 氏(甲南大学・教授)  
日本側発表：「甲南大学における環境教育実践報告と今後の展望」  
岡田 泰典 氏・桔梗 佑子 氏・松田 拓也 氏・藤井 孝明 氏(甲南大学・大学院)  
タイ側発表：「プラナコーン大学における環境教育活動の報告とその成果」  
Artorn Thongprasong 氏(プラナコーン=ラジャバト王立大学・大学院)  
14:35～14:50 休 憩  
14:50～15:40 基調講演「環境教育の国際的な大学連携の試み【通訳あり】  
カナダ・ヴィクトリア大学環境学部フィールド・コースの事例より」  
谷口文章氏(「地球環境と世界市民」国際協会・会長)  
15:40～15:50 休 憩  
15:50～17:50 パネル・ディスカッション「環境教育を通じた日本・タイの大学連携【通訳あり】  
カリキュラム，フィールドワーク，人材交流等をめぐって」  
コーディネーター：谷口 文章 氏(甲南大学環境総合研究所・所長)  
パネリスト：  
Siriwat Soondarotok氏(プラナコーン=ラジャバト王立大学環境教育センター長)  
「環境教育センターにおけるカリキュラムの開発とその展開」  
Chinatat Nagasinha 氏(プラナコーン=ラジャバト王立大学)  
「大学教育におけるフィールドワークの内容と課題」

Hataya Netayarakas 氏 ( プラナコン = ラジャバト王立大学 )

「環境教育における人材交流と環境教育活動のネットワーク化」

\* 共同研究者 : Chintana Soondarotok 氏 ( 同大学 ) Chaweewan Heamnak 氏 ( 同大学 )  
山田卓三氏 ( 名古屋芸術大学 教授 )

「日本における大学間のパートナーシップ」

17:50 閉会挨拶 谷口 文章 氏

18:30 ~ 20:30 懇 親 会 ( 甲南大学生協レストラン 2 階 )

\* 通訳 : 康 典子 氏

### 申 込 方 法

- 1 ) 名前 , 所属 , 連絡先住所 , 電話 ・ FAX , E-mail ( 同行者につきましても、左記をご記入ください )
- 2 ) 懇親会の参加 ・ 不参加

上記項目を御記載の上、ハガキ・FAX・メールのいずれかの方法で、5月17日(月)迄に事務局にお申込みください。

( 問合先 ) 「地球環境と世界市民」国際協会事務局

〒 658 8501 神戸市東灘区岡本 8-9-1 甲南大学文学部 谷口研究室気付

TEL/FAX : 078-435-2368 E-mail : fumiaki@konan-u.ac.jp

参 加 費 : 500 円

懇親会費 : 一般 3,000 円 ( 学生 1,500 円 )

### 「地球環境と世界市民」国際協会事務局

〒 658 8501 神戸市東灘区岡本 8 9 1 甲南大学文学部 谷口研究室気付

TEL/FAX : 078 - 435 - 2368 , E-mail : fumiaki@konan-u.ac.jp

### 会場へのアクセス

大阪方面よりお越しの方 :

JR大阪駅より新快速で芦屋へ、普通電車に乗り換え摂津本山下車

阪急梅田駅より特急で岡本駅下車

神戸方面よりお越しの方 :

JR三宮駅より普通電車で摂津本山駅下車

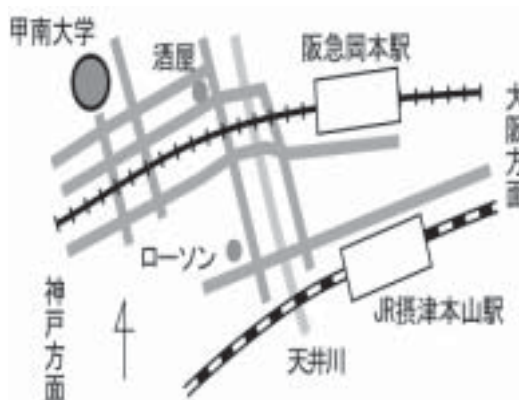
阪急三宮駅より特急で岡本駅下車

各駅から大学

阪急岡本駅より徒歩約 10 分

J R 摂津本山駅より徒歩約 10 分

tel : ( 078 ) 431-4341 ( 大代表 )



## トピックス

### 大和言葉で環境教育を

名古屋芸術大学 山田卓三

日本には言葉はありましたが文字がありませんでした。大和言葉は抽象語や総称語がまだ発達しない段階で漢語という高次の言語と共に漢字が移入され、言葉が文字で書かれるようになりました。音読みだけ借りた万葉仮名が使われたり、言葉に漢字が当てられました。しかし、総称語や抽象語など日本に無かった言葉はそのまま漢字表記で導入されました。理、学、信、徳、義など、これら抽象概念は日本に無かったものです。そして、片仮名や平仮名、さらに漢字を用いた和語がつけられました。近代になって欧米の翻訳語が加わり、更に近年は翻訳せずに片仮名語としてそのまま用いる言葉がたくさんあります。

環境という言葉は勿論大和言葉ではありません。暑いとか寒いとか雨や風、春や秋、空などの言葉はありましたが天候とか気象、季節や四季と言った総括語や抽象語はありませんでした。空(そら)という言葉はあっても天(てん)という言葉はなかったように環境という概念はもともとは日本にはなかった概念です。空といえば青い空など具体的で共通の認識理解が可能です。しかし、天と言った場合は天空だけでなくキリスト教の神、仏教用語としての天、さらに運命などのいくつもの概念ももっています。環境教育といった「環境」と「教育」の複合語もそれを共通理解するのは困難です。欧米語を片仮名書きにしても実体のある事象は分かりませんが抽象語は共通理解は困難です。今問題にされているイラクへの自衛隊の派遣と重ねても日本の自衛隊という言葉は現地語にはないわけで軍隊と言う意味の言葉で紹介されていることでしょう。このため誤解が生ずることもあります。物事理解や認識を深めるためには、体験的理解と知的理解が必要です。実体のある事象ならその事象をなるべく多く体験することによって、知的認識理解もしやすくなります。これが体験と知による事象の認識理解です。さらに「環境教育学」「人間環境学」「環境人間学」のような概念はさらに高次の理論構築が必要になります。

環境教育は教育であるので、ねらいがありそれを達成させるための内容と方法、さらに評価が求められます。ところが教育のねらいは理念目標であるためにそれに到達するために何をとりあげどうしたら良いかが見え難くなっています。神を知るために実体のない神について考えるよりその神が創造した実体のある自然を対象に自然の法則を見いだしたニュートンのようなアプローチが必要だと思われれます。抽象的な理念目標を模索し、行動を伴わないと意味がないという評価目標を意図すると最後に行動だけをとってつけるような環境教育になってしまいがちです。行動を伴うためには幼児からの躰が不可欠です。環境教育のねらいは他者理解すなわち、自分をとりまく人や社会さらに自然など環境への思いやりですから、人に会ったら挨拶をする、感謝の気持ちを表す、人に迷惑をかけないように心がける、自然を大切にするとした基本的なことの良いのです。低学年では知だけでなく感性(こころ)の学習も必要です。こころには実体がありません。そこでこころの教育はとらえどころのないのが実情です。心は実体はありませんが、身体という衣をつけるとその行動で見えて来ます。その中枢が脳です。体験と感性と知による環境教育学の構築と共に児童生徒を主体とした学校での具体的な環境教育の在り方、教育の在り方を実践者が研究して欲しい。教育学者や実践者が、片や学習指導要領にある理念目標や方法論で学力を論じ、片や測

定学力で論じていると測定不可能な「潜在学力」とも言える評価が抜けてしまい  
す。教育基本法や環境基本法はさらに上位の理念です。愛国といえばそれぞれの思い  
があります。国を思う心、さらにふるさとを思うところと言えはまた違った感じにな  
ります。兎追いしかの山の「故郷」を懐かしく愛する心は理念で掲げるものではなく  
体験と感性と知によって結果的にみにつくもので教えるものでは無いと思われま  
す。しかし、そのあたりまえのことを理念目標としてかかげてもそれにあまり目くじら  
をたてることもないと思われます。「環境教育学」が確立していない現在、学会誌「環  
境教育」の論文とはも問い直してみる必要があると思われます。既成の自然科学の論  
文と同じ尺度で良いかどうかです。論理が明確で方法論が確かで用語の使い方が適正  
かなどの基準が適応できるかどうかです。知的な言葉は古くは漢語でしたし、近年は  
欧米語です。拉致とか拿捕と表現すると知的に高度な論文となり、「連れていかれた」  
とか「捕らえられた」と分かりや直く具体的に書くと論文にならないで報告となるの  
は問題です。負担の「負」は背中にもつこと、「担」は肩に持つこと、これを原点で  
体験的に理解することも環境教育の実践には必要だと思われます。

## インタビュー

### 「環境人間学」から環境問題を考える

谷口 文章（甲南大学教授）

21世紀は「環境の時代」といわれますが、このことについてどのように考えてお  
られますか。

21世紀には確かに「環境の時代」ではありますが、もう一步深くとらえると「何  
のための環境か」を考えねばなりません。それはつまり、すべての「生命（いのち）  
のための環境」です。なぜならば、環境と生命は、フィルムのネガとポジの関係にあ  
り、同じもののウラとオモテであるからです。したがって21世紀が持続可能である  
ためには、健全な環境と健康な生命が前提となります。その意味で、21世紀は「環  
境と生命の時代」と広げた方がよいと思います。

「環境」をどのように定義できますか。

環境は、周囲をとりまいてる生物の生活域である外界の状況や条件であると考え  
られています。しかし環境と外界は違う概念です。ドイツ語では、生物をとりまくす  
べての外界の条件を「ウムゲーブング Umgebung」といい、他方、生物の感覚が把  
握する主体的な世界、つまり外界の条件のうち生物の生活に関与するものを「ウム  
ヴェルト Umwelt」というように区別します。したがって、「環境」とは、生物が主  
体的に認識できる世界で、その生物にとっての生命生息域的なものとして定義できま  
す。

人間と環境の関係をどのようにとらえたらいいのですか。

環境問題というと自然環境のみを考える人が多いですが、それは環境の一面です。  
環境を自然環境、社会環境、心の環境に分類して、環境問題をとらえることが大切  
です。そうすれば、外の環境である「自然」や「社会」環境を破壊したのは、人間の  
内なる環境である「心」の環境汚染に起因していることが理解できます。その上で、  
それぞれの環境における破壊・汚染の具体的な状況と解決方法を明らかにすることが大  
切です。

人間の過剰な諸々の環境への働きかけこそ、反省されなければなりません。「宇宙  
船地球号」の復元能力には限界があるからです。



「環境教育」はどのような子どもや若者を育てるのでしょうか。

私は、環境教育を即物的に考えて、環境問題を解決するための教育であるとは考えておりません。「教育」である限り、まず心豊かな感性をもった子どもや若者を育てることです。そうすれば、彼らは自然環境の破壊や社会環境の汚染に気づき、それを解決するために主体的な行動を行なう若者に育つでしょう。そのような彼らこそが、環境教育を通じて、持続可能な循環型社会の実現に向かって主体的で責任ある行動ができると思います。

それぞれの環境でおきている環境破壊・汚染の現状とその解決のためには？

まず自然環境においては、大気汚染、オゾンホール、温暖化などの地球環境問題といわれるものがあります。また社会環境においては、迷惑公害、食品汚染、環境ホルモンなどの問題があります。それらの環境破壊や汚染をもたらしたのは、心の環境汚染であり、個人・企業・国家のエゴイズムから生じた人間中心主義の考え方の結果です。その意味で、「人間中心 ego-centered」から、「生態系中心 eco-centered」への環境倫理が要請されているのです。

環境倫理を実現するためには？

まず生態系をベースにした「環境倫理学」の確立が望まれ、それによって次世代の人を考慮した世代間倫理、資源の公平な配分の正義、動植物や自然に対する権利・義務の拡張などの理論的枠組みが提供されます。次に、その枠組みの中で日常生活における「環境モラル」が展開される必要があります。それを、具体的には環境教育が担うことになると考えてよいでしょう。こうして環境倫理学による価値観と環境モラルによるライフスタイルを転換できれば、地球環境問題の解決への一歩となるでしょう。

環境人間学の立場からライフスタイルをどのように変えたらいいのですか。

人間の日常生活の場であるローカルな地域環境からの出発を忘れず、環境を形成している独自の伝統文化や風土を保存・継承して、地域環境を再評価することが必要です。そしてその視野をグローバルな地球レベルの視点にまで拡張する努力を続けることが大切です。そうすれば、日常の人間のライフスタイルは、世界の人類のライフスタイルにまで高められると思います。

(月刊『理科教室』(星の環会) 2004年4月号 巻頭言より転載)

### 第3回 環境啓発シンポジウム

2003年12月11日(木)14時40分から、甲南大学1021講義室にて、第3回環境啓発シンポジウム「持続可能な循環型コミュニティの創造 - 甲南大学における環境マナーをめぐる - 」が行われた。

文学部人間科学科科目「環境学基礎論」と文学部谷口文章ゼミが主催し、シンポジストとして学生部から禁煙・喫煙について、財務部から光熱費削減、清掃業者から分別ゴミの量、造園業者から樹木の移植、生協および学生から摂津祭でのリサイクル活動などの講演があり、学生に向けて環境啓発の意識向上が求められた。



## ネットワーク掲示板

認定健康行動科学士 近畿地区研修のご案内

日時：2004年5月22日(土)・23日(日)

会場：甲南大学(神戸市東灘区岡本8-9-1)

	5月22日(土)	5月23日(日)
9:00 ~ 12:30	健康行動科学入門	箱庭療法
13:40 ~ 15:10	健康行動科学入門	わかる疫学方法論
15:20 ~ 16:50	死生学とターミナルケア	パス解析・共分散構造分析法

<申し込み方法> 受講科目、お名前、連絡先、電話、FAX番号、受付番号(初回のみ)を記載の上、FAX(047-332-5631)または下記に郵送にてお申込ください。

<申し込み先> 日本保健医療行動科学会

〒272-0021 市川市八幡2-6-18-501 TEL:047-332-0726

第91回 日本保健医療行動科学会 近畿支部研究会

日時：2004年5月29日(土)14時30分～17時30分

話題：「補完・代替医療から統合医療へ」(仮題)

講師：竹林 直紀(関西医科大学・心療内科[統合医療研究所])

会場：大阪駅前第4ビル22階・大阪産業大学梅田サテライト

(JR大阪駅から徒歩約6分、JR北新地駅から徒歩約5分、阪急「梅田駅」より徒歩約9分、阪神「梅田駅」より徒歩約4分、地下鉄御堂筋線「梅田駅」より徒歩約5分)

参加費：500円(会員・非会員とも)

問合せ先 日本保健医療行動科学会近畿支部事務局

〒651-2103 神戸市西区学園西町3-4 神戸市看護大学 吉岡研究室

E-mail:yoshioka@tr.kobe-ccn.ac.jp Tel/Fax:078-794-8074

「環境再生医」資格認定制度 中級検定実施のご案内

日時：2004年6月12日(土)・13日(日)[両日9:00～17:00]

会場：甲南大学

検定料：25,000円

受験資格：環境保全・循環・再生に関する専門的実務、フィールドワークなど実践的  
市民活動、学校ほか教育活動や地域活動等、また農・林・魚業等の実務の  
上で、合算して5年以上の従事経験を要します。

該当する専門学科・課程を修了(卒業)したものは、専門学校・短大・大学は2年、  
修士課程以上はその修学期間について実務経験期間に算入できます。

詳しくはホームページ(URL:<http://www.narec.or.jp>)をご覧ください。

問合せ先 NPO法人 自然環境復元協会 事務局

〒113-0033 東京都文京区本郷 6-2-10-902

Tel:03-3818-0252 Fax:03-3818-8530 E-mail:info@narec.or.jp

検定(講習・試験)申込方法：受付は郵送またはe-mailのみ、Fax不可

日本野外教育学会第7回大会のご案内

<日 時> 2004 年6月19 日(土) ~ 20 日(日)

<場 所> 奈良教育大学(〒630-8528 奈良県奈良市高畑町)

[ JR奈良駅、近鉄奈良駅から、奈良交通バス「市内循環外回り・内回り」にて「高畑町奈良教育大学前」下車]

<テーマ> 『人と自然』

<プログラム>

[ 第1日目 ] 基調講演「修験道に学ぶ」 田中利典氏(金峯山寺宗務総長)

[ 第2日目 ] シンポジウム「野外教育における自然の意味」

シンポジスト: 谷口文章氏(甲南大学)、大石康彦氏(森林総合研究所)

永吉英記氏(国土館大学)、林壽夫氏(プロジェクトアドベンチャージャパン)

コーディネーター: 岡村泰斗氏(奈良教育大学)

この他のプログラムもございます。プログラム・参加申し込みなどの詳細は日本野外教育学会HP [<http://www.joes.ne.jp/>] をご覧下さい。

<問合せ先> 日本野外教育学会第7回大会事務局

〒630-8528 奈良県奈良市高畑町 奈良教育大学岡村泰斗研究室

TEL&FAX: 0742-27-9199 E-Mail: [taito@nara-edu.ac.jp](mailto:taito@nara-edu.ac.jp)

## 事務局だより

この度、「地球環境と世界市民」国際協会第7回大会として、「日本・タイ国際会議：環境教育を通じた日本・タイの大学連携 カリキュラム、フィールドワーク、人材交流等をめぐって」を開催致します。参加を希望される方は、本紙中にあります申込方法にしたがって、お手続きください。なお、当日参加も受付しております。お誘い合わせの上、ご来場ください。

環境の保全のための意欲の増進及び環境教育の推進に関する基本方針の作成に向けた懇談会の開催について

第1回懇談会の開催について

会期: 5月10日(月) 10:00 ~ 12:00

会場: 中央合同庁舎5号館22階 環境省第1会議室

内容: 懇談会の趣旨説明と自由討議ほか

傍聴希望については、環境省ホームページ <http://www.env.go.jp/press/press.php3?serial=4910> よりお申し込みください。

---

「地球環境と世界市民」国際協会ニュースレター No.12

事務局: 「地球環境と世界市民」国際協会

〒658-8501 神戸市東灘区岡本8-9-1

甲南大学文学部人間科学科 谷口研究室

Tel/Fax.078-435-2368 E-mail: [fumiaki@konan-u.ac.jp](mailto:fumiaki@konan-u.ac.jp)

Homepage: [http://www.nk.rim.or.jp/~fumiaki/iaeg/iaeg\\_j.html](http://www.nk.rim.or.jp/~fumiaki/iaeg/iaeg_j.html)

---